

## 5-2. 経済対策の中での国土強靱化について

政府は、コロナ禍の拡大防止対策として大規模な追加経済対策を決定しました。その中に国土強靱化が大きなテーマの一つになっています。大変頼もしい言葉ではありますが、この強靱化とは何なのか。その中の個々の事業についてはそれぞれに必要なことはわかります。しかし、重要なことは何のために、いつまで、どのような効果を目指しているのかということがあまり明確になっていないような気がします。もちろん、世論的には、この時期なんでコロナに集中しないのかという批判も聞きますし、一部の報道でも言われています。一見、国土強靱化ということは災害を思うと受けが良い言葉で、昨今の災害状況を見ても様々なインフラの防衛は必須だと思われてはいます。ただ、強靱化するに当たっては、何をどう強靱化するのかを中長期的な視点で構想されているのか、これまでの経験が生かされているのか、被害の対象からの視点はどうかということもあります。そして、今回の追加経済対策は、何かこのコロナの国難に乗じたものではないかと懸念されています。つまり、投資をするということはその効果を明確にすべきであるし、単なる一時の消化ではありません。そのためには、焦点を絞って、総花化を避け、本当に次世代への資産になっていくのかということを考えていかなければならないと思います。

今回に限れば、まずは風雲急を告げる新型コロナ禍対策に重点を置いた直接的な事業に投資することが必要で、強靱化に関しては、新時代を見据えての実行可能な計画を立案することが望ましいし、国民が納得できるものに再構築することこそ必要な気がします。縦割りの予算の分捕りではなく、この人材難、財政難、社会システムが変化している中での見直しが必要だということのような気がします。例えば、ハード対策で対応するものとソフト対策を充実させるところを区分することにして、地域の特性を十分加味して移転、ゾーニングするということもライフサイクル的には検討の対象になるような気もします。言ってみれば、確実なリスクマネジメントがなされぬままに、目先のことやこれまでの流れで行くのではない、新しい発想が必要になるような気がします。発作的に欲しいものを食べていけば、いずれは習慣病になります。モノを作れば必ずその後の維持管理が必要になりますが、やがてはそのコストだけで首が回らなくなるというのでは困ります。いずれにしても、予算と労力を集中的に効率的に使うことはいつの時でも、あらゆるところで求められるわけですが、特に、このコロナ禍対策では最重要なポイントで、この国難を克服することに一致団結すべきです。少なくとも、これに乗じた政治的な圧力をかけて財務省が「負けました」とならないようにしなければなりません。二兎を追う者は一兎をも得ずという言葉ありますが、今回こそ、優先度を問われているときはないわけですが、ある意味で集中すべきときであり、災害でよく言われる正常化の偏見と毅然と戦っていかなければならないと思います。

おそらく、経済対策が肥大化する背景には、何かに乗じるという心理が働くところがあるはずですが、防災に限らず防疫対策でも、何のために、何を、いつまでという3Wこそが基本になるとおもいます。国土強靱化というならば、そうすべき要因をしっかりと認識した上で、新しい構想を立案すべきだと思います。